

第108期定時株主総会招集ご通知に際しての
インターネット開示事項

「連結計算書類」及び「計算書類」の各注記

事業年度	2018年3月 1日から
(第 108 期)	2019年2月28日まで

イオンモール株式会社

第108期定時株主総会招集ご通知に際して提供すべき書類のうち、「連結計算書類」及び「計算書類」の各注記につきましては、法令及び当社定款第15条の規定に基づき、インターネット上の当社ウェブサイトに掲載することにより株主の皆さまに提供しております。

(連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 42社

主要な連結子会社の名称

AEON MALL (CHINA) BUSINESS MANAGEMENT CO., LTD.、AEON MALL (CAMBODIA) CO., LTD.、PT. AEON MALL INDONESIA、AEON MALL (GUANGDONG) BUSINESS MANAGEMENT CO., LTD.、PT. AMSL INDONESIA、AEON MALL HIMLAM Company LIMITED、AEON MALL VIETNAM CO.,LTD.、PT. AMSL DELTA MAS、AEON MALL (CHINA) CO., LTD.、株式会社OPA

AEON MALL (GUANGZHOUZENGCHENG) BUSINESS MANAGEMENT CO., LTD. は、当連結会計年度において新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

2. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、在外子会社の決算日は、12月31日であります。

連結計算書類の作成に当たっては、同決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、1月1日から連結決算日までに発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

3. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

①有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

②デリバティブ

時価法を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産

経済的耐用年数に基づく定額法

各資産別の主な経済的耐用年数は以下の年数を採用しております。

建物及び構築物	2年～39年
機械装置及び運搬具	3年～17年
工具、器具及び備品	2年～20年

② 無形固定資産

定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

③ 長期前払費用

契約期間等による均等償却（償却年数2年～50年）

(3) 繰延資産の処理方法

社債発行費については支出時に費用処理しております。

(4) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

営業未収入金等の債権の貸倒れによる損失に備え、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

従業員及びフレックス社員（パートタイマー）に支給する賞与に備え、支給見込額のうち当連結会計年度に負担すべき金額を計上しております。

③ 役員業績報酬引当金

役員に支給する業績報酬に備え、支給見込額のうち当連結会計年度に負担すべき金額を計上しております。

④ 店舗閉鎖損失引当金

店舗閉店に伴い発生する損失に備え、店舗閉店により合理的に見込まれる中途解約違約金等の閉店関連損失見込額を計上しております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産及び負債は決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算しております。在外子会社の換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めております。

(6) 重要なヘッジ会計の方法

① ヘッジ会計の方法

原則として繰延ヘッジ処理によっております。また、特例処理の要件を満たす金利スワップについては特例処理によっております。

- ② ヘッジ手段とヘッジ対象
ヘッジ手段・・・金利スワップ
ヘッジ対象・・・借入金

- ③ ヘッジ方針
金利スワップは金利変動リスクを回避する目的で行っております。

- ④ ヘッジの有効性評価の方法
ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、両者の変動額を基礎にして判断しております。ただし、特例処理によっている金利スワップについては有効性の評価を省略しております。

(7) その他連結計算書類作成のための基本となる重要な事項

- ① 退職給付に係る負債の計上基準

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における見込額に基づき、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を計上しております。なお、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異はその発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により、翌連結会計年度から費用処理しております。

未認識数理計算上の差異については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

- ② 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

在外連結子会社において、当連結会計年度よりIFRS第15号（顧客との契約から生じる収益）を適用しております。当該会計基準の適用が連結計算書類に及ぼす影響は軽微であります。

(連結貸借対照表に関する注記)

1. 担保に供している資産

建物及び構築物	36,614百万円
土地	2,418
計	39,033

同上に対応する債務

1年内返済予定の長期借入金	957百万円
流動負債「その他」(1年内返還予定の預り保証金)	75
長期借入金	25,478
長期預り保証金	980
計	27,491

2. 有形固定資産の減価償却累計額 294,435百万円

(連結損益計算書に関する注記)

1. 固定資産売却益の内訳は、次のとおりであります。

高崎オーパ(群馬県高崎市)	3,080百万円
仙台雨宮(宮城県仙台市)	1,422
イオンモール甲府昭和(山梨県中巨摩郡昭和町)	103
その他	1
計	4,608

2. 固定資産売却損の内訳は、次のとおりであります。

その他	1百万円
計	1

3. 固定資産除却損の内訳は、次のとおりであります。

建物及び構築物	435百万円
工具、器具及び備品	34
解体撤去費用	623
その他	54
計	1,149

4. 減損損失の内訳は、次のとおりであります。

当連結会計年度（自 2018年3月 1 日 至 2019年2月28日）において、当社グループは以下の資産グループについて、減損損失を計上しております。

場所	用途	種類	金額 (百万円)
秋田県	店舗	建物等	730
東京都	店舗	建物等	9
神奈川県	店舗	建物等	8
愛知県	店舗	建物等	88
京都府	店舗	建物等	2
大阪府	店舗	建物等	190
兵庫県	店舗	建物等	6,725

当社グループは、モール事業における店舗を最小単位としてグルーピングを行っております。なお、遊休資産については、各々の資産を単位としてグルーピングをしております。

上記の資産グループについて収益性が著しく低下したため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。回収可能価額は、使用価値又は正味売却価額により測定しております。使用価値については、将来キャッシュ・フローを3.9%で割引いて算出しております。なお、一部店舗については、将来キャッシュ・フローが見込まれないことから、使用価値を零として評価しております。正味売却価額については、不動産鑑定評価額により評価しております。

上記の内訳は、建物及び構築物7,188百万円、工具、器具及び備品245百万円、長期前払費用276百万円、その他44百万円であります。

(連結株主資本等変動計算書に関する注記)

１．発行済株式の種類及び総数に関する事項

	株 式 の 種 類	当連結会計年度 期首株式数(株)	増加株式数(株)	減少株式数(株)	当連結会計年度 末株式数(株)	摘 要
発行済株式	普 通 株 式	227,430,089	42,700	－	227,472,789	(注) 1
自己株式	普 通 株 式	1,721	558	－	2,279	(注) 2

(注) １．発行済株式の増加42,700株は、新株予約権の行使による増加であります。

２．自己株式の数の増加は、単元未満株式の買取り558株による増加分であります。

２．配当に関する事項

(1) 配当金の支払

決 議	株 式 の 種 類	配 当 金 の 総 額 (百万円)	1 株 当 た り 配 当 額 (円)	基準日	効力発生日
2018年4月11日 取締役会	普 通 株 式	4,321	19.00	2018年2月28日	2018年5月1日
2018年10月10日 取締役会	普 通 株 式	4,321	19.00	2018年8月31日	2018年10月24日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

2019年4月9日開催の取締役会において、次のとおり決議を予定しております。

株 式 の 種 類	配 当 金 の 総 額 (百万円)	配 当 の 原 資	1 株 当 た り 配 当 額 (円)	基準日	効力発生日
普 通 株 式	4,321	利 益 剰 余 金	19.00	2019年2月28日	2019年4月26日

３．新株予約権に関する事項

当連結会計年度末の新株予約権（権利行使期間の初日が到来していないものを除く。）の目的となる株式の種類及び数
普通株式 52,250株

(金融商品に関する注記)

１．金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、イオンのディベロッパー事業の中核として、モール事業を行っており、一般テナントのほか総合小売業を営むイオンリテール株式会社及びイオングループの各社に対して当社モールの店舗を賃貸しております。当該事業を行うため、資金運用については、主として安全性の高い定期性預金等の金融資産に限定し、資金調達については、銀行借入等による間接金融のほか、社債やコマーシャル・ペーパーの発行、債権流動化による直接金融によっております。デリバティブ取引は、資金調達及び海外連結子会社向けの資金貸付に係る金利又は為替の変動によるリスク回避を目的としており、投機的な取引は行わない方針です。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である営業未収入金は、顧客の信用リスクに晒されております。

投資有価証券は、主として業務上の関係を有する会社の株式であり、市場価格の変動リスク及び信用リスクに晒されております。

差入保証金は、主に店舗の賃借に係るものであり、差入先の信用リスクに晒されております。

営業債務である営業未払金は、主に1年以内の支払期日であります。

短期借入金、コマーシャル・ペーパー、長期借入金及び社債は、主に営業取引及び設備投資等に係る資金調達であります。また、支払期日にその支払いを実行できなくなる流動性リスクを内包しておりますが、返済時期又は償還時期を分散させることにより流動性リスクの回避を図っております。また、その一部は、変動金利であるため金利の変動リスクに晒されておりますが、新規の借入につきましては金利スワップを利用してヘッジしております。

長期預り保証金は、テナント賃貸借契約等に係る敷金及び保証金であります。

デリバティブ取引は、長期債務に関わる金利変動リスクを回避するための金利スワップ取引並びに為替変動リスクを回避するための通貨スワップ取引を行っております。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、「連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記 3. 会計方針に関する事項 (6) 重要なヘッジ会計の方法」に記載しております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

①信用リスクの管理

当社グループは、当社グループ規程に従い、営業未収入金等の営業債権について、営業部門及び財務経理部門が取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引先ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況の悪化等による回収懸念の早期把握や貸倒れリスクの軽減を図っております。

投資有価証券のうち、時価のある株式については四半期ごとに時価の把握を行い、時価のない株式等については定期的に発行体の財務状況等の把握を行っております。

差入保証金の一部については、抵当権、質権を設定するなど保全措置を講じております。

デリバティブの利用に当たっては、契約先は、いずれも信用度の高い国内金融機関としているため、信用リスクは僅少であると認識しております。

②市場リスクの管理

当社グループは、借入金に係る支払金利の変動リスク及び海外連結子会社向け貸付金の為替変動リスクを抑制するために、金利スワップ又は通貨スワップ取引を利用しております。当該デリバティブ取引については、借入金及び子会社向け貸付金の実施等に係る社内決裁手続において、個別案件毎に決定されます。取引の実行及び管理は財務担当部門が行っております。

投資有価証券等については、市場動向、時価及び発行体（取引先企業）の財務状況等を定期的にモニタリングして経営陣に報告するとともに、保有状況を継続的に見直しております。

③資金調達に係る流動性リスクの管理

当社グループは、各部署からの報告に基づき財務経理部門が適時に資金繰り計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持等により流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該時価が異なることもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2019年2月28日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません((注2)を参照ください。))。

	連結貸借対照表 計上額(*2) (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	56,823	56,823	—
(2) 営業未収入金 貸倒引当金(*1)	7,426 △34		
	7,392	7,392	—
(3) 投資有価証券	2,351	2,351	—
(4) 差入保証金（流動資産「その他」（1 年内回収予定の差入保証金）を含む）	52,753	49,073	(3,679)
資産計	119,320	115,641	(3,679)
(1) 営業未払金	(19,977)	(19,977)	—
(2) コマーシャル・ペーパー	(6,000)	(6,000)	—
(3) 未払法人税等	(7,879)	(7,879)	—
(4) 専門店預り金	(41,931)	(41,931)	—
(5) 預り金	(5,043)	(5,043)	—
(6) 設備関係支払手形	(26,902)	(26,902)	—
(7) 設備関係電子記録債務	(11,804)	(11,804)	—
(8) 設備関係未払金	(8,732)	(8,732)	—
(9) 社債（1年内償還予定の社債を含む）	(250,000)	(251,378)	1,378
(10) 長期借入金（1年内返済予定の長期借 入金を含む）	(250,975)	(252,159)	1,184
(11) 長期預り保証金（流動負債「その他」 （1年内返還予定の預り保証金）を含む）	(139,147)	(138,749)	(397)
負債計	(768,394)	(770,560)	2,165
デリバティブ取引 ヘッジ会計が適用されていないもの	(172)	(172)	—

(*1) 営業未収入金に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

(*2) 負債に計上されているものについては、（ ）で示しております。また、デリバティブ取引によって生じたデリバティブ資産及びデリバティブ負債は純額で表示しており、デリバティブ負債については、（ ）で示しております。

(注１) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金及び (2) 営業未収入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

投資有価証券の時価については、取引所の価格によっております。

(4) 差入保証金

差入保証金の時価については、合理的に見積った償還予定時期に基づき、リスクフリー・レートで割り引いて算定する方法によっております。

負債

(1) 営業未払金、(2) コマーシャル・ペーパー、(3) 未払法人税等、(4) 専門店預り金、(5) 預り金、(6) 設備関係支払手形、(7) 設備関係電子記録債務及び (8) 設備関係未払金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(9) 社債

当社が発行する社債の時価については、市場価格等に基づき算定しております。

(10) 長期借入金

長期借入金の時価については、リスクフリー・レートに信用スプレッドを加味した利率により、元利金の合計額を割り引いて算定する方法によっております。

(11) 長期預り保証金

預り保証金の時価については、合理的に見積った返還予定時期に基づき、リスクフリー・レートで割り引いて算定する方法によっております。

デリバティブ取引

デリバティブ取引の時価については、取引先金融機関から提示された価格によっております。なお、金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(注２) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額（百万円）
投資有価証券（投資その他の資産「その他」を含む）	10
合計	10

上記については、市場価格がなく、かつ、将来キャッシュ・フローを見積ることができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから、時価開示の対象としておりません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の回収予定額

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	56,823	—	—	—
営業未収入金	7,426	—	—	—
差入保証金(※)	691	592	42	1

(※) 差入保証金については、回収予定が確定しているもののみ記載しており、回収期日を明確に把握できないもの(51,424百万円)については、回収予定額には含めておりません。

(注4) 社債、長期借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
コマーシャル・ペーパー	6,000	—	—	—
社債	15,000	145,000	75,000	15,000
長期借入金	24,015	152,502	73,504	952
長期預り保証金	75	75	—	—

(資産除去債務に関する注記)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

1. 当該資産除去債務の概要

モール用土地の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

2. 当該資産除去債務の金額の算定方法

資産除去債務の見積りにあたり、使用見込期間は10年から39年、割引率は0.0%から2.2%を採用しております。

3. 当連結会計年度における当該資産除去債務の総額の増減

期首残高	12,003百万円
有形固定資産取得に伴う増加額	1,504
時の経過による調整額	218
履行による減少額	△118
見積りの変更による増減額(△は減少)	2,780
期末残高(1年内履行予定分を含む)	16,389

(賃貸等不動産に関する注記)

当社及び一部の連結子会社では、全国各地域及び海外（中国・アセアン地域）において、不動産賃貸収益を得ることを目的として賃貸商業施設等を所有しております。当連結会計年度における当該賃貸等不動産（自社保有物件をいい、マスターリース及びプロパティマネジメント等により運営しているモールを含まない。以下同様）に関する賃貸損益は39,280百万円（主な賃貸収益は営業収益に、主な賃貸費用は営業費用に計上）、固定資産売却益は4,607百万円（特別利益に計上）であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は、次のとおりであります。

用途	連結貸借対照表計上額（百万円）			当連結会計年度末の時価 （百万円）
	期首残高	期中増減額	期末残高	
賃貸商業施設等	866,036	70,797	936,833	1,177,114

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。

2. 期中増減額のうち、主な増加額は不動産取得（162,092百万円）であり、主な減少額は固定資産除売却（35,646百万円）と減価償却費（38,800百万円）及び為替換算差額（△11,512百万円）であります。

3. 当連結会計年度末の時価は、主に鑑定会社より鑑定評価書等を取得し、算出した金額であります。

(1株当たり情報に関する注記)

- | | |
|----------------------|-----------|
| 1. 1株当たり純資産額 | 1,685円46銭 |
| 2. 1株当たり当期純利益 | 147円45銭 |
| 3. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益 | 147円41銭 |

(注) 算定上の基礎

親会社株主に帰属する当期純利益	33,538百万円
普通株主に帰属しない金額	一百万円
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益	33,538百万円
普通株式の期中平均株式数	227,454,421株
潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に 用いられた普通株式増加数	65,162株

(重要な後発事象に関する注記)

当社は、2019年2月19日開催の取締役会決議に基づき、2019年3月29日に無担保社債を発行しております。

その概要は次のとおりです。

社債の名称	イオンモール株式会社第19回無担保社債（社債間限定同順位特約付）
社債の総額	金30,000百万円
各社債の金額	100万円
利率（％）	0.30％
発行価格	各社債の金額100円につき金100円
発行日	2019年3月29日
償還の方法及び償還期限	2024年3月29日に一括償還
担保の内容	本社債には担保及び保証は付されておらず、また本社債のために特に留保されている資産はありません。
資金の使途	コマーシャル・ペーパー償還資金、借入金返済資金の一部に充当する方針であります。

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

① 関係会社株式及び関係会社出資金

移動平均法による原価法

② その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

(2) デリバティブの評価基準及び評価方法

デリバティブ・・・時価法

2. 固定資産の減価償却方法

(1) 有形固定資産

経済的耐用年数に基づく定額法

各資産別の主な経済的耐用年数は以下の年数を採用しております。

建 物 2年～39年

構 築 物 2年～39年

機械及び装置 3年～17年

工具、器具及び備品 2年～20年

(2) 無形固定資産

定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

(3) 長期前払費用

契約期間等による均等償却（償却年数2年～50年）

3. 繰延資産の処理方法

社債発行費については支出時に費用処理しております。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

営業未収入金等の債権の貸倒れによる損失に備え、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員及びフレックス社員（パートタイマー）に支給する賞与に備え、支給見込額のうち当事業年度に負担すべき金額を計上しております。

(3) 役員業績報酬引当金

役員に支給する業績報酬に備え、支給見込額のうち当事業年度に負担すべき金額を計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における見込額に基づき、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を計上しております。なお、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異はその発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により、翌事業年度から費用処理しております。

(5) 店舗閉鎖損失引当金

店舗閉店に伴い発生する損失に備え、店舗閉店により合理的に見込まれる中途解約違約金等の閉店関連損失見込額を計上しております。

5. 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

6. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

原則として繰延ヘッジ処理によっております。また、特例処理の要件を満たす金利スワップについては特例処理によっております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段・・・金利スワップ

ヘッジ対象・・・借入金

(3) ヘッジ方針

金利スワップは金利変動リスクを回避する目的で行っております。

(4) ヘッジの有効性評価の方法

ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、両者の変動額を基礎にして判断しております。ただし、特例処理によっている金利スワップについては有効性の評価を省略しております。

7. その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結計算書類における会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(貸借対照表に関する注記)

1. 担保に供している資産

建物	36,614百万円
土地	2,418
計	39,033

同上に対応する債務

1年内返済予定の長期借入金	957百万円
1年内返還予定の預り保証金	75
長期借入金	25,478
長期預り保証金	980
計	27,491

2. 有形固定資産の減価償却累計額 250,101百万円

3. 貸出コミットメント

当社は、連結子会社であるAEON MALL INVESTMENT (CAMBODIA) CO., LTD. 及びPT. AEON MALL INDONESIAに対して、運転資金及び設備投資を行うことを目的とした貸出コミットメント契約を締結しております。当事業年度末における貸出コミットメントに係る貸出未実行残高等は次のとおりであります。

貸出コミットメントの総額	16,526百万円	(130百万米ドル、	266,800百万ルピア)
貸出実行残高	11,711百万円	(105百万米ドル、	ー百万ルピア)
差引額	4,814百万円	(24百万米ドル、	266,800百万ルピア)

4. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務 (区分表示したものを除く)

短期金銭債権	92百万円
長期金銭債権	1,040百万円
短期金銭債務	2,954百万円
長期金銭債務	4,830百万円

(損益計算書に関する注記)

1. 固定資産売却益の内訳は、次のとおりであります。

仙台雨宮(宮城県仙台市)	1,422百万円
イオンモール甲府昭和(山梨県中巨摩郡昭和町)	103
その他	9
計	1,535

2. 固定資産売却損の内訳は、次のとおりであります。

その他	0百万円
計	0

3. 固定資産除却損の内訳は、次のとおりであります。

建物	136百万円
構築物	155
工具、器具及び備品	31
解体撤去費用	623
その他	44
計	991

4. 関係会社との取引高

営業取引	
不動産賃貸収入	736百万円
不動産賃貸原価	885百万円
販売費及び一般管理費	2,244百万円
営業取引以外の取引	5,308百万円

(株主資本等変動計算書に関する注記)

1. その他利益剰余金の内訳

(単位：百万円)

	固定資産圧縮積立金	特別償却準備金	別 途 積 立 金	繰越利益剰余金	合 計
2018年3月1日期首残高	469	215	28,770	270,791	300,247
当 事 業 年 度 中 の 変 動 額					
剰 余 金 の 配 当				△8,642	△8,642
当 期 純 利 益				34,612	34,612
固定資産圧縮積立金の積立	－			－	－
固定資産圧縮積立金の取崩	△16			16	－
特別償却準備金の積立		－		－	－
特別償却準備金の取崩		△126		126	－
当事業年度中の変動額合計	△16	△126	－	26,112	25,969
2019年2月28日期末残高	453	89	28,770	296,904	326,216

2. 自己株式の種類及び株式数に関する事項

株 式 の 種 類	当 事 業 年 度 期 首 株 式 数 (株)	増 加 株 式 数 (株)	減 少 株 式 数 (株)	当 事 業 年 度 末 株 式 数 (株)	摘 要
普 通 株 式	1,721	558	－	2,279	(注)

(注) 自己株式の数の増加は、単元未満株式の買取り558株による増加分であります。

(税効果会計に関する注記)

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳

(1) 流動の部

繰延税金資産	
未払事業税等	491百万円
賞与引当金	447
店舗閉鎖損失引当金	186
その他	174
繰延税金資産合計	1,300

(2) 固定の部

繰延税金資産	
有形固定資産	7,485百万円
資産除去債務	4,745
長期前払費用	946
関係会社出資金評価損	1,105
貸倒引当金	3
その他	178
繰延税金資産合計	14,465
繰延税金負債	
建設協力金等	98
資産除去債務に対する除去費用	3,516
固定資産圧縮積立金	198
特別償却準備金	39
その他有価証券評価差額金	575
その他	43
繰延税金負債合計	4,472
繰延税金資産の純額	9,992

(リースにより使用する固定資産に関する注記)

1. ファイナンス・リース取引 (借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が2009年2月20日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

	取得価額相当額(百万円)	減価償却累計額相当額(百万円)	期末残高相当額(百万円)
工 具 、 器 具 及 び 備 品	35	35	-
合 計	35	35	-

(2) 未経過リース料期末残高相当額

1 年内	- 百万円
1 年超	-
合計	-

(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

支払リース料	1 百万円
減価償却費相当額	1
支払利息相当額	0

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(5) 利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(借主側)

1 年内	42, 525 百万円
1 年超	263, 117
合計	305, 643

(貸主側)

1 年内	2, 374 百万円
1 年超	7, 304
合計	9, 679

(関連当事者との取引に関する注記)

１．親会社及び法人主要株主等

種 類	会社等の名称	資 本 金 又 は 出 資 金 (百 万 円)	事 業 の 内 容 又 は 職 業	議 決 権 等 の 被 所 有 割 合 (%)	関 係 内 容		取引の内容	取 引 金 額 (百 万 円)	科 目	期 末 残 高 (百 万 円)
					役 員 の 兼 任 等	事 業 上 の 関 係				
親 会 社	イ オ ン 株	220,007	純 粋 持 株 会 社	直接55.39 間接 0.75	2 名	－	資金の寄託 資金の寄託 利息の受取り	45,800 20	関係会社預け金 流動資産のその他(未収収益)	－ 4

２．子会社及び関連会社等

種 類	会社等の名称	資 本 金 又 は 出 資 金	事 業 の 内 容 又 は 職 業	議 決 権 等 の 所 有 割 合 (%)	関 係 内 容		取引の内容	取 引 金 額 (百 万 円)	科 目	期 末 残 高 (百 万 円)	
					役 員 の 兼 任 等	事 業 上 の 関 係					
子 会 社	AEON MALL INVESTMENT (CAMBODIA) CO., LTD.	10千米ドル	モール事業	直接49.00 緊密な者又は 同意している者 51.00	1 名	－	資金の貸 付	資金の貸付	8,367	関係会社長期貸 付金	11,711
								利息の受取り	541	流動資産のその 他（未収収益）	47
子 会 社	AEON MALL (CAMBODIA) CO., LTD.	292,960 千米ドル	モール事業	100	2名	－	資金の貸 付	資金の貸付	9,270	関係会社長期貸 付金	13,863
								利息の受取り	525	流動資産のその 他（未収収益）	98
子 会 社	AEON MALL VIETNAM CO., LTD.	376,561 千米ドル	モール事業	100	2名	－	増 資 の 引 受	12,132	－	－	

３．同一の親会社を持つ会社等及びその他の関係会社の子会社等

種 類	会社等の名称	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 被所有割合(%)	関係内容		取引の内容	取引金額 (百万円)	科 目	期末残高 (百万円)
					役員の 兼任等	事業上の 関係				
親 会 社 の 子 会 社	イオンリテール㈱	100	ゼネラル・マーチャンダイズ・ストア	－	1名	店舗賃貸及びPM受託	不 動 産 賃 貸 収 益	33,254	営業未収入金	636
									長期預り保証金	12,206
親 会 社 の 子 会 社	イオンクレジットサービス㈱	500	金融サービス	－	－	クレジット業務委託	ク レ ジ ッ ト 手 数 料	5,119	未 収 入 金	9,103
親 会 社 の 子 会 社	イオンリテールストア㈱	100	ゼネラル・マーチャンダイズ・ストア	－	－	－	土 地 の 購 入	17,000	－	－

(注) １．上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には流動資産のその他・長期貸付金・預り保証金を除いて消費税等が含まれております。

２．上記長期預り保証金には１年内返還予定の預り保証金112百万円及び固定負債「その他」（長期前受収益）28百万円を含めて表示しております。

３．取引条件及び取引条件の決定方針等

イオン株式会社に対する資金の寄託運用の金利については、市場金利を勘案し決定しております。なお、取引金額は期中の平均残高を記載しております。

AEON MALL INVESTMENT (CAMBODIA) CO., LTD. 及びAEON MALL (CAMBODIA) CO., LTD. に対する資金の貸付の金利については、市場金利を勘案し決定しております。

AEON MALL VIETNAM CO., LTD. に対する増資の引受は、子会社が行った増資を全額引き受けたものであります。

イオンリテール株式会社に対する店舗賃貸については、経済情勢の変化、公租公課等を考慮し、店舗賃貸借契約毎に3年毎の改定により賃貸料を決定しております。また、同社に対するPM受託については、一般的な取引条件を参考に決定しております。

イオンクレジットサービス株式会社のクレジット業務委託については、一般的な取引条件を参考に決定しております。

イオンリテールストア株式会社からの土地の購入に関する取得価額については、不動産鑑定評価を参考に決定しております。

4. イオンクレジットサービス株式会社の持株会社であるイオンフィナンシャルサービス株式会社が当社の議決権0.23%を保有しております。

(1株当たり情報に関する注記)

1. 1株当たり純資産額	1,819円27銭
2. 1株当たり当期純利益	152円17銭
3. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益	152円13銭
(注) 算定上の基礎	
当期純利益	34,612百万円
普通株主に帰属しない金額	－百万円
普通株式に係る当期純利益	34,612百万円
普通株式の期中平均株式数	227,454,421株
潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に 用いられた普通株式増加数	65,162株

(重要な後発事象に関する注記)

当社は、2019年2月19日開催の取締役会決議に基づき、2019年3月29日に無担保社債を発行しております。

その概要は次のとおりです。

社債の名称	イオンモール株式会社第19回無担保社債（社債間限定同順位特約付）
社債の総額	金30,000百万円
各社債の金額	100万円
利率（％）	0.30％
発行価格	各社債の金額100円につき金100円
発行日	2019年3月29日
償還の方法及び償還期限	2024年3月29日に一括償還
担保の内容	本社債には担保及び保証は付されておらず、また本社債のために特に留保されている資産はありません。
資金の用途	コマーシャル・ペーパー償還資金、借入金返済資金の一部に充当する方針であります。